

緊急避妊薬を薬局でプロジェクト

緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクトは、女性が健康を守るために、安心して、適切かつ安全に、緊急避妊薬（通称 アフターピル）にアクセスできる社会の実現を目指します。

#緊急避妊薬を薬局で

声明・要望書

署名活動

#緊急避妊薬を薬局で プロジェクトの これまでの活動とこれから

2026.1.29 オンライン記者会見



#緊急避妊薬を薬局で

緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト

緊急避妊薬とは

緊急避妊薬（通称：アフターピル）とは、
避妊の失敗（コンドームの破損や低用量ピルの飲み忘れ等）や
性暴力にあった際に、
緊急的に妊娠を避けることに役立つ薬です。
緊急避妊薬は、セックスからできるだけ早く、
72時間以内に飲むことが効果的です。



緊急避妊薬を薬局でプロジェクト「もしものおまもり 緊急避妊薬ガイド」より
<https://kinkyuhinin.jp/awareness-raising/#pamphlet>

緊急避妊薬は、WHOが指定する 必須医薬品

意図しない妊娠の不安を
抱える全ての女性・女の子に
緊急避妊にアクセスする
権利がある

WHOは、緊急避妊薬の使用を希望する個人に対して、
処方箋なしで市販の緊急避妊薬を入手できるようにすること
を強く推奨

(健康と福祉のためのセルフケア介入に関する WHO ガイドライン)
WHO guideline on self-care interventions for health and well-being, 2022 revision

<https://app.magicapp.org/#/guideline/Lr21gL/section/Ea6RDj>

現在 世界約90カ国で薬局で入手できる緊急避妊薬

医師の処方箋なしに薬局で薬剤師に相談し、説明を受けた上で購入が可能(BPC): **76カ国**

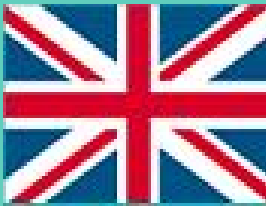
薬剤師を介さずに薬局などで直接購入が可能 (OTC): **19カ国**

日本を除くG7(主要7カ国): ドイツ、イギリス、イタリアでBPC / アメリカ、カナダ、フランスでOTC
約800円から5千円程度で購入可能。フランス、ドイツなど若年者は緊急避妊薬を無料入手できる国もある



アメリカ

薬局: 約4200~5300円
病院、非営利団体、学校で
無料提供も!



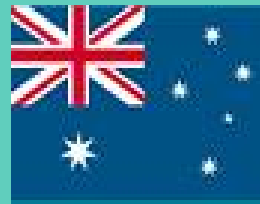
イギリス

薬局: 約900円
病院、学校で無料提供も!



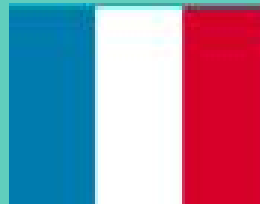
カナダ

薬局: 約2400~4200円
病院: 約1400円~2100円



オーストラリア

薬局: 約1100~4000円



フランス

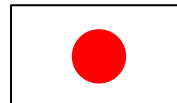
薬局: 約900円
病院、学校で無料提供も!



ドイツ

薬局: 約2200円
病院で無料提供も!

日本



病院: 約6000円~2万円

厚労省ウェブサイト公表
緊急避妊薬の
対面診療ができる医療機関



2020年厚生労働省「緊急避妊に係る取組」
/2019年厚生労働省医療施設（動態）調査・病院報告の概況

新型コロナ禍で
妊娠不安を抱いた人の内、
緊急避妊薬を入手できた人

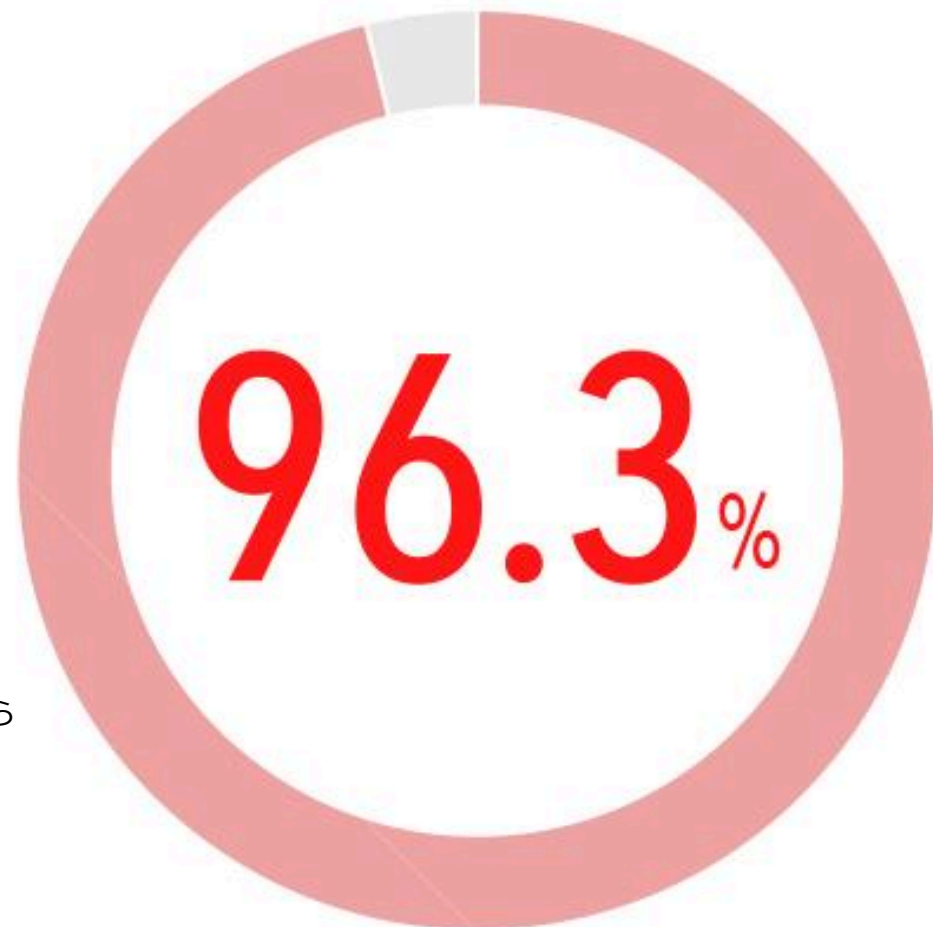


▼調査詳細はこちら



#なんでないのプロジェクト、NPO ビルコンによる調査(2020年)

緊急避妊薬のアクセスに
障壁があると思う人の割合



#なんでないのプロジェクト、NPO ビルコンによる調査(2019年)

アンケートで見えてきた当事者の声： 緊急避妊薬の手に取りにくさ

地方のため、病院が遠く
自宅から片道数時間かかる

オンライン診療の宅配では
届くまでに**時間**がかかる

10代のため

保護者同伴ではないと
処方できないと言われた

高額すぎて買えない

土日や祝日で
病院がやっていない

人目も気になり、
受診には心理的ハードルがある

仕事があって休めない



#なんでないのプロジェクト、NPO ビルコンによる調査(2020年)

これまでの取り組み

院内勉強会



政策提言



アフタービル（緊急避妊薬）を必要とするすべての女性に届けたい！



アフタービル（緊急避妊薬）を必要とするすべての女性に届けたい！
緊急避妊薬は、避妊失敗したときに、妊娠を防ぐための薬です。アフタービル（緊急避妊薬）は、避妊失敗したときに、妊娠を防ぐための薬です。



啓発



【緊急避妊薬】薬局での適切な運用のための1万人ウェブアンケート



調査

オンライン署名キャンペーンでは 18万筆以上の賛同が集まる

アフターピル（緊急避妊薬）を必要とするすべての女性に届けたい！

<http://change.org/afterpill>



180,895 [🔒]

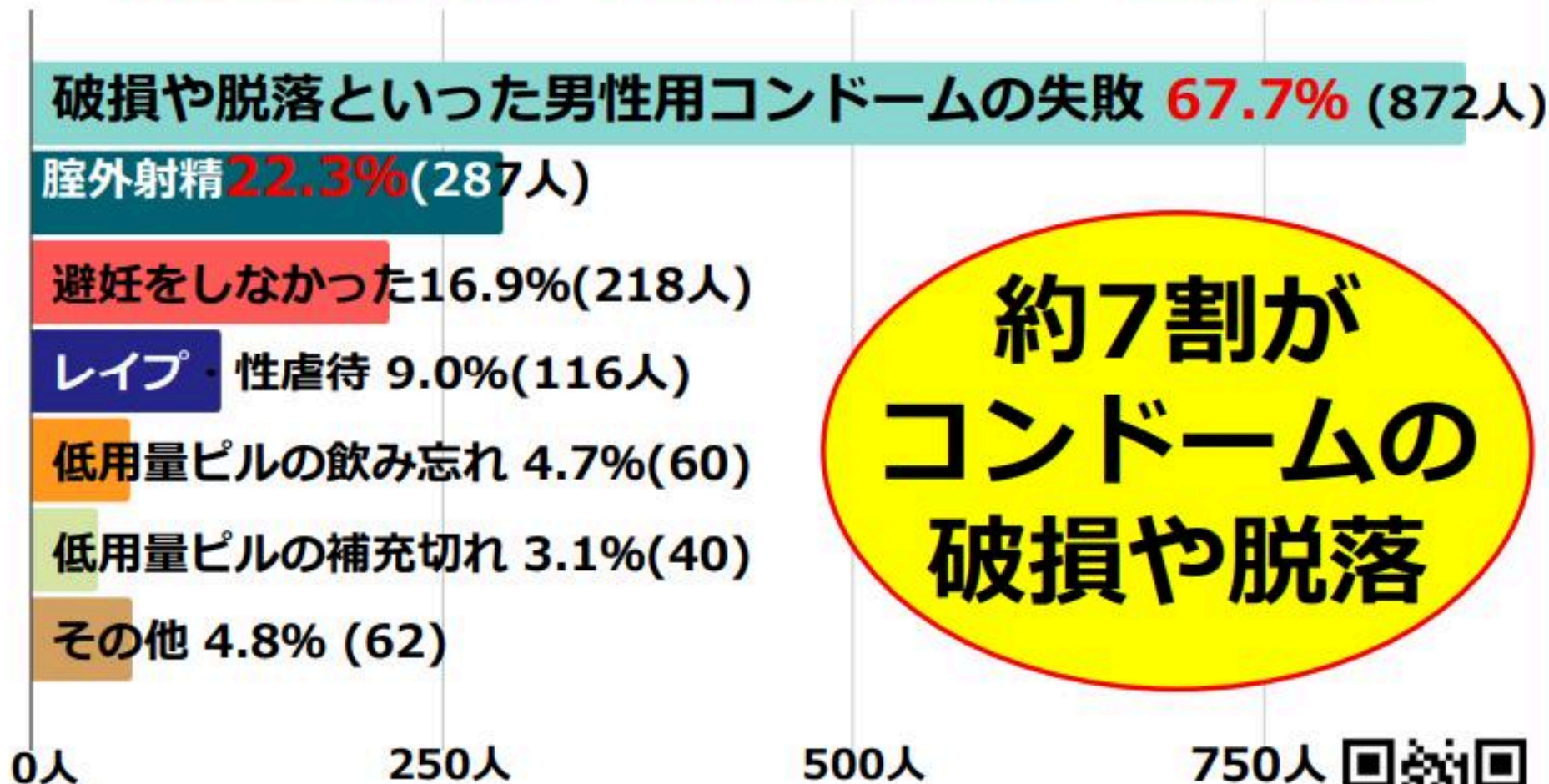
認証済みの賛同 ▼

🔗 リンクをコピーする



※2026年1月28日現在

意図しない妊娠に対する不安を感じたきっかけ (緊急避妊薬を入手した1288人の回答・複数回答可)



約7割が
コンドームの
破損や脱落

第3回オンライン調査 2020年12月4日-20日 / 対面診療・オンライン診療いずれかの方法で緊急避妊薬を入手した人が対象 / 回答者数1288人 / 複数回答可能



緊急避妊薬へのアクセス改善を求める声

以前避妊に失敗したのが、金曜の夜だった。診療を受け付けてくれるところがなく、そのままなってしまった。その時妊娠しなかったのはラッキーとしか言いようがなく、次の生理が来るまで不安でしかたなかった。あの時、薬局で緊急避妊薬が買えていたら、と今でも思う。(30代女性)

診察代と処方代合わせて3万円ほど必要だった。それでも妊娠はしたくなかったし、服用した。相手もサポートすると言葉では伝えてくれたが、金銭的な補助はなく、正直高価で情けなくなった。(20代女性・大学生)

(オンライン診療での入手について)

いつ届くのかという不安との戦いだった

(20代女性・大学生)

(オンライン診療での入手について)

家に届くまで時間がかかり72時間以上かかってしまった

(30代女性・主婦)

政府にはたらきかけ、スイッチOTC化の要望申請

2020年10月厚労省に署名・要望書提出



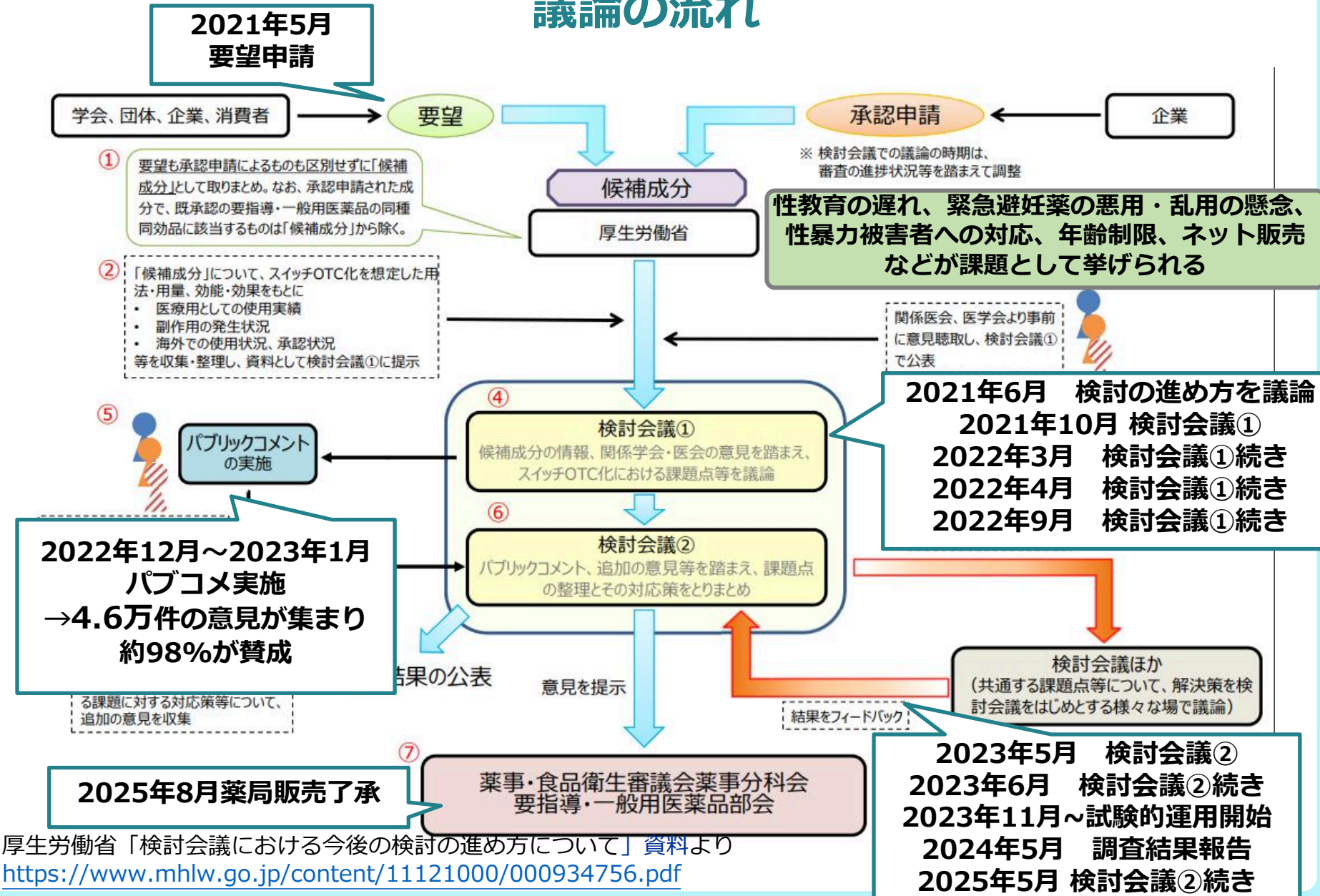
2020年11月 橋本男女共同参画担当大臣（当時）



2021年10月厚労省/
検討会参加



医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議での議論の流れ



緊急避妊薬のOTC化の条件

緊急避妊薬のスイッチOTC化の要件全体像(案)①

【全般的な販売対策】

- 販売する薬剤師への研修修了を義務付け
- 販売する薬局等は、以下の要件を満たす必要あり
 - ① 研修修了薬剤師が販売すること
 - ② プライバシーへの十分な配慮等に対応できる体制を整備していること
 - ③ 近隣の産婦人科医等との連携体制を構築していること
- 販売薬局・薬店・薬剤師を国で管理・把握し、必要な情報(プライバシー保護策等)を適切に公表
- 適正使用確保の観点から、対面販売・面前服用を義務付け。妊娠状態のフォローアップのため、3週間後の受診勧奨や、妊娠検査薬の販売等の確認手段の提供を薬局等に徹底する。
- 臨床試験や再審査等から安全性は確認されているため、医療用と同様、使用年齢に制限は付けない。
- 親の同意に関わりなく、予期せぬ妊娠を希望しない若者を支援すべき観点から、親の同意は不要。
- 購入者全員に対し、年齢確認を行うとともに、年齢に応じた販売対策を行う。また、販売をその先の支援に適切につなげるきっかけとする観点から、こども家庭庁とも連携しつつ、若年者に対して適切な相談・情報提供を行う等について関係支援機関に誘導し、連携した対策を講じる。
- 厚労省において、面前服用を含む販売方法のあり方について検討を行い、一定期間後、見直しについて議論を行う。

緊急避妊薬のOTC化の条件

【性交同意年齢(16歳)未満の者や性犯罪被害等が疑われる場合の付加的な販売対策】

○ 関係機関の地域連携ネットワークによる支援体制

- ・ スイッチOTC化が性犯罪や性搾取の「隠蔽手段」にならないよう、薬剤師が窓口となり、保護が必要な購入者の情報を支援機関と共有し、地域の支援機関が切れ目なく連携して被害者を救済できる体制を整備する。
- ・ 薬局等とワンストップ支援センター・児童相談所・産婦人科医等の連携については、情報共有やカウンセリングの連携を基本とし、薬局等は、地域で連携可能なワンストップ支援センター・児童相談所・産婦人科医等を予め把握しておくなど、薬剤師のみでの対応が困難な場合に備えること。

○ 薬局等での対応

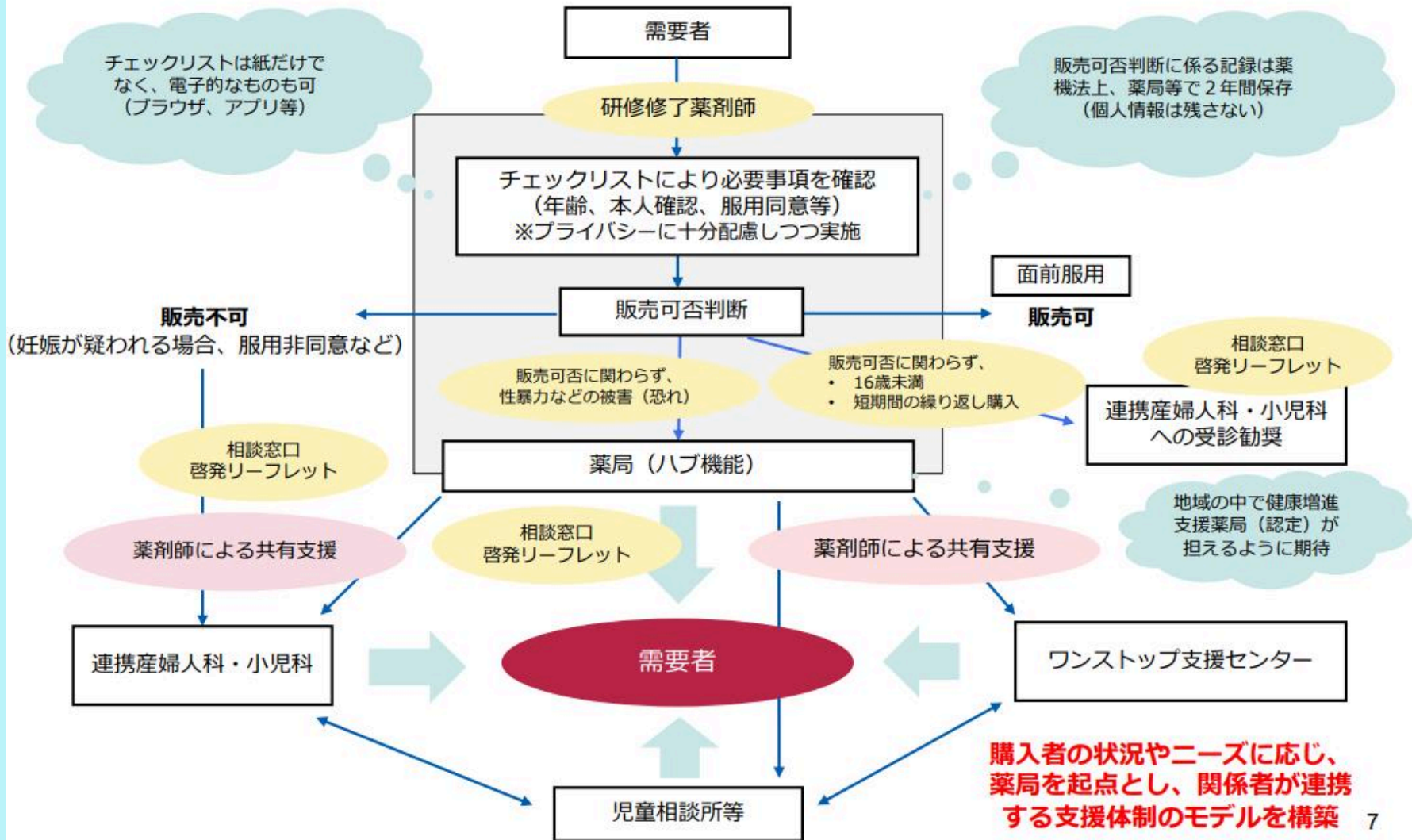
- ・ チェックシートやブラウザ・アプリ等により、購入者の適格性や年齢等を確認。
- ・ 服薬指導時等に聴取した情報を踏まえ、16歳未満の者及び短期間で繰り返し購入を行う者の場合には、産婦人科や小児科に受診するよう伝えるとともに、購入者を保護すべき相当の事由(性暴力等)を見い出した場合には、
 - ✓ 社会的支援が必要と認められる場合には、ワンストップ支援センター等の支援機関に連絡を促す。必要に応じ、薬剤師が支援機関に連絡するとともに、状況によっては児童相談所や産婦人科・小児科等とも連携。
 - ✓ 特に、虐待が疑われる場合は、薬局から直接、児童相談所へ通報。
 - ✓ 性犯罪の証拠保全の必要がある場合、産婦人科を紹介するとともに警察等にも相談。

○ 行政の対応

- ・ こどもの保護の観点から、厚労省とこども家庭庁が連携して緊急避妊薬販売時を端緒とした対策に取り組んでいくとともに、OTCとしての販売状況の実態を販売後もモニターしていく。
- ・ 薬局等と関係機関の地域連携については、薬剤師からのアプローチのみでなく、ワンストップ支援センターや児童相談所等の支援機関・産婦人科・小児科等医療機関関係団体宛てに、行政から協力依頼を行う。
- ・ 購入者に配布するよう、支援情報や支援機関の連絡先等をまとめたリーフレット等を作成し、薬局等に配置、サイトに掲載。

(参考イメージ)

16歳未満、性暴力等の被害者や被害が疑われる者等への対応



ついに日本全国の薬局で販売…!?

ノルレボ®



相談窓口



購入するには

販売店の皆様へ



自分のからだと未来のために

街の薬局・ドラッグストアで
買えるアフターピル

緊急避妊薬（アフターピル）

ノルレボ®



2026
2.2
発売

ノルレボ 要指導医薬品 緊急避妊

不安のいちばん近くに。

ついに日本全国の薬局で販売…!?



富山県 埼玉県 岐阜県
福岡県は「調整中」
北海道は7店舗のみ

今後の課題と展望

- **取り扱い薬局の拡大/地域格差の解消、情報発信**
- **面前服用などの条件の見直し**
- **価格（税込7,480円）**
- **薬剤師のユースフレンドリーな対応の拡大**
- **デマ、フェイク情報への対応**
- **SRHRに関する 이슈への取り組み**

緊急避妊薬を薬局でプロジェクトの今後の取り組み

- 取り扱い薬局の拡大
- 薬剤師の方向け
資料の提供
- ポジティブなメッセージの啓発
- アンケート調査の実施
- 市民・当事者のニーズ
に沿った政策提言（性教育の充実化、若者の相談しやすいサービスの充実化含む）



緊急避妊薬のスイッチOTC化承認にあたっての声明文

2025年10月23日

緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト

2025年10月20日、緊急避妊薬の処方箋なしでの薬局販売＝OTC化がついに承認されました。ひとりひとりの声が政治を動かした、大きな快挙です。

#緊急避妊薬を薬局でプロジェクトは2018年に始まり、本プロジェクト、及び緊急避妊薬のアクセス改善に向けてご支援、応援下さった皆様、特に、共に声を上げてくださった当事者の皆様に、心より感謝申し上げます。

一方で、基本的な権利の保障に、なぜこんなに時間がかかったのか。条件に残った面前服用の強要も含め、SRHR実現のために向き合うべき課題は山積しています。

当たり前の権利が当たり前に守られるために。緊急避妊薬の一層のアクセス改善もふくめ、私たちはこれからも当事者の声に基づいたSRHR政策の実現を求め続けます。